與ゝ郎る

次第

善のをもへあらのくば法を

四方にひろめせ是は志仏乃

り光一遍と申よろこば我此

度三熊野にまいりて一七日参籠

申ば満願あり毎夜中て久字

あらたま霊夢を蒙りてとく六十

万人決定往生乃札を配り

ひろめよとの御告にまかせ先
都に上り候　月影もひき
南の御山をいざ立出て
旅衣紀乃関守りゆるさねば
はるかさなりて何もさらあまた
日数経て急ぐ都に
急ぐ程なく都誓願寺に着にけり

告よりさ札をひろめ給ふや尤
思ひ入る数や実仏法の力とて
決定往生の色ゞに札を渡しけり
勝を以て名もとゞめぬもなし
なべて念仏三昧の道場に出で
人の来るよ　所はおなじ
洛陽の東の寺にぞ心を

空よりうき世に　外衰の涙
拝ゝに孫子にはなれ　危難乃跡
旅宿乃人をや　新のまのはうき
杖たよりなく　暮　かり押とも

上哥

係りある世心は旅も一樹乃かげ
うらふ生たる蓬が杣のたよりに
さまぬんもそは柳乃あはれへ袖
ざ旅や世数もをとぬ物ひまよ涙
あたらぢきよろ遊行上人乃
みやこをいそぐやよもすんく

シテ詞

いふ上人にや申へき事　衰人

ワキ詞

なまちとゆきくろう　三下　御札を
見奉れば十万人決定往生
あるかなき柳ゝ　六十万人よりわかのは

往生不滿に義座らせ座ぢヽも
不審りろうらん　＼口詞　かりまりく
此不審にも於我是ハ　此經の
此界せうり小四句總文あまぢそれ
四句乃文此上の字我とわすぢ證
文於為まも付うるぢ時發定往生
なせあさこ佛とぢこ於文そうわ

法形ミろへ　＼三詞　概ヽ四句の文ハ
座らむ哉ぢりなる事ゆへて出於
書一一、一一一一
やら母しぢ愚麗乃わまへに志めし
二一、　＼平
妙く　以てく讀てむのき中
さんに六字名号一遍法十界依正
一遍躰万行離念一遍證人中
上々妙好華此四句乃文乃上證

字なまだぶ千万人とは出る
なわ今こそ不窮寿命の闇
なも照す弥陀の光明遍照
十方世界までも届く方なき法
なるをかつうみ六十万人也よ
人数をのりなむへき掬い
嬉しやいれうわば此清れ乃六十
万人ゑ人数を度お捨て淀で
往生南無阿弥陀仏とたゞ一
筋ヨ意ひなりたもろこう名
念仏る往生なきやうも
ばうもろすゝ南無阿弥陀仏と
となふまで仏も我もなき里
くわく南無阿弥陀仏の声計

ぞ随心深心回向発願の種袋揮
耳小そ乃へきに紙屋ばまの如来以
数ずある一称数りて悟りなきも
迷ひなきもの無縁ふそうを厳む
ざら修雑る女阿弥陀やらぶ往ひて
が一かのきろみ夕月乃よふなら
念仏を念の衆念仏哉以きや

念の気いやまりや衆念仏乃
ぜ流ろ賤覚さん唯権おなし
念仏はあるのこ雑や五陸子雲乃
う戚方哉ぐらしけ御はつなら
よわぜ二世安楽の国小まやまき
ゆりそう嬉しき実安楽の国
なま遊座常くまるゝ蓮楽乃寿乃

孫子まさとなる　衣紋やく
まう那に依他の國じくしき
みちらる落もした　たのみるう
住ひの發なはひ光別益無量光
あくさ光佛陀乃後の世も　弥陀
一發と　仰ぎを　き数やく
バ下諸佛菩薩光阿弥陀佛なり

遍し戌法本當も上人も同し
法楽敢るうとだとけ眞上人を
一族よおりのんやまわ　りうに
上人小中へきさ子孫よ　同るう
卯ろうり　推敲さとうさん
歌をのせ上人乃御手記りて
六字乃名号よすし有難きん

早
是ハ小したなる事を尋ね出か
着よわ槇尾寺とうちたる額を
殊ぎ六字の名号ふかしへき事
思ひもよらぬ事にて候　川や
是も然ら本常乃法を見おなし
めせ　早
　　いうも仙本首の法を告とくい
法力ハ何者小位人う　三下
　　かくハゆ

早詞
さゝのはあかおれ石塔乃寄る
かしきや雨何乃石塔ハいなる見
我ら法墓とさうゆーしは橋　上ゲ二三
とは不審なり　上ゲ詞
　　きのうんな不審
志かひうとよ我も昔は此方小　上ゲ二
値遇乃あまは世にのむすも　上ゲ二
下
縁や通りし　強小いはら港

凡情りしの心を流さ世も恥り
しやうりとても上人よ我
修ハなき悪路乃和泉ハ知らう
とゞ石路のゆし来乃ひわと
ともに失よりわく
佛説ろ
任を捨取るとおもふ家を持さき
六字の名号をあはせて仏前に

うたしまはしきや天香
意しはしらしむかはくたわ
音楽の聞ゆる事能ありなせくよ
是より付ける縁めの心ひと済を
通ミ済しげの手おなし回向小
かず世阿うる佛弥陀如来 あう
五のさ乃家の名号唐ら求世比

衆生済度のためば佛乃御出世
歌しそ仏前にけ済す給をよ
ず梵もるのとなる家に世ば私乃
此のこゆり難し一方ならぬ佛果成
うるや極楽の歌舞乃菩薩と成
たる也二十五菩薩聖衆の
御法中は紫雲たなびく夕ね影

光乃影清く さやけし象う
極楽世界とげまさるかなと
ず給ひそよ　称當寺抑所るとや
そもそも清る天智天皇乃勅
代毎有八垂迹乃大菩薩
我は乃所神の清化とうや
神といひ佛といひ只水波乃

極地也大和光乃影ひろく一旅
かゝ方衆生済度の御本誓
たゞ一乗て毎日一度ハ西方
浄土に通ひ向ひて来迎引接乃
誓ひをよりしおしきの
登りきまし遊ばし雲の上なきや
匡来迎ひ給ひは乃まする座

昔霊山の法ぬき清む一仏
ぞ西方乃弥陀如来願主
観涅槃示現観世音三世利益
同一体も衆生やまとりため濟
出現なわ是我成仏のびわ哉
うくけしつ人濃我ならずしまは
行つきさぬ清の法の身へなれ

さかさゝらも十ゝゝり影に
ずつとゝて楽を極楽国乃為
かきやすさハ彩乃迷ひのやらし
定り楼ざ娯月の西方も爰哉
上事章ゝゝ以ぞ心乃済むとは
斗堅斯寄を採せなのき歌葉の
菩薩も様ゝ斗仏子哉なとは

ちゞ病りなひとまなを仏乃
清らぬを孫みすを衰く海る
法乃みは人ゝ法乃みな人花
実も如来猿れの数ゝ居定に
ひゝきゝ色青来斗ある呉香
遠ー寄花小雨雲乃袖を
なひやなすくも哉き上人の

別ゑりなりし黄檗衆ハ面々に

ば堂ようで御六字の歌など那

一同よ礼したまふぞあった

まわり候齋踊の歌